

## シリア国節水灌漑農業普及調査

(調査期間：2001年5月～2.0ヵ月、担当業務：乾燥地農業)

### 調査背景

シリア国は国土の大半が乾燥地及び半乾燥地に属し、農業生産の増大や安定化のためには灌漑が不可欠である。さらに、人口増加による食糧増産の必要性も高まっており、灌漑導入による生産性の向上が求められて、灌漑面積は1985年の652,000ha(灌漑率11.6%)から2000年には1,210,000ha(同22.6%)まで増加した。しかし、灌漑面積増加に伴う灌漑用水量の増大は、近年の降水量の減少もあいまって、シリア国内の多くの地域で農業用水不足という結果をもたらしている。特に地下水に関しては、無規制ともいえる数多くの井戸掘削により、各地で地下水位の低下や地下水の枯渇が顕在化してきている。こうした危機的な状況の中で、現在水資源の90%近くを使用している農業用水を節約し、余剰水を灌漑面積の拡大や都市用水・工業用水等の他分野で活用するために、節水灌漑システムを一般農家に導入することが最優先課題の一つとなっている。

### 調査概要

このような背景の下に、シリア農業農地改革省・灌漑水利局を受入機関として、シリア国における農業及び水資源枯渇の現状を調査し、節水灌漑普及の技術的・社会的制約要因を明らかにすることによって、同国の当該分野における今後の技術協力プログラムを策定するための調査が実施された。本件調査には、シリア国の農業の現状、各地における水資源枯渇状況、将来の水収支予測、節水灌漑導入に関するシリア政府及び各ドナーの取組み、節水灌漑普及の実態と制約要因の分析等の調査や、本調査に関連するシリア政府からの既存の要請案件の検討等を含む。これらの調査結果をもとにして、長期専門家派遣、開発調査、プロジェクト型技術協力の実施等から成る具体的案件の形成を行った。

### 担当事項

- 全国レベルの農業セクターの情報、資料の収集及び解析。
- 全国主要地域における水資源枯渇状況の調査及び解析。
- 節水灌漑導入に関するシリア政府及び各ドナーの取組み状況の調査及び解析。
- 節水灌漑普及の実態調査とその制約要因の分析。
- 本調査に関連するシリア政府からの既存要請案件の検討。
- 当該分野に係る今後の技術協力プログラムの策定。



水資源の枯渇により放棄されたブドウ畑 (ダマスカス郊外県)



近代灌漑システムの導入が進む棉花栽培 (ハサケ県)



研究センターの灌漑試験圃場 (ハマ県)